

もじばら

平成二十五年は、第二祖日向聖人の七百遠忌です

題字・持田日勇貫首親下

第25号

発行日 平成23年3月1日

発行所 千葉県茂原市茂原 1201
日蓮宗東身延 本山藤原寺
TEL 0475-22-3153
発行責任者：増田 寶泉 総務執事

掲示板

日蓮大聖人大銅像建立 浄財勸募中



日蓮大聖人の大銅像を建立致します。
当山の檀信徒並びに
各寺院の御住職、檀信徒の皆様方、
銅像建立に賛同していただいける方々
のご協力を心よりお待ちしております。
お早めにお申し込み下さいますよう
お願い申し上げます。

貫首様のお言葉

仏殿奉安の日蓮聖人座像について



この宗祖座像は、何れの頃よりか不明ですが当山において門祖日向聖人尊像として奉安されていたものです。お厨子は昭和三十八年の日向聖人六百五十遠忌に大乘講の山田記業上人と信者によって寄附されたものです。この尊像はお顔とお手が墨で塗られたように黒いのですが、お鼻が少しかけて白くなっていましたので、補修を立正大学仏教学部仏教文化財修復研究・実習室に依頼しました。平成二十年十二月二十二日に正式に契約して、秋田貴廣教授と笹岡直美氏の手によって適切な

作業が行なわれ、無事完了し、平成二十三年一月二十九日の土曜日の午後三時に焼山報告式と再開眼の法要を行いました。

といいますのは修理のため、お首を抜いて胎内蔵品（納入品）を調査しましたところ、十四冊四方の紙に記載された由緒文書に、この像が延宝六年（一六七八）戊午十一月十三日に松平薩摩守御母儀真修院日長の当病平癒に当たり教授院日壽の感得によって造立された日蓮大聖人の尊像であることが判明したからであります。またお首の内側の墨書により延宝六年八月十二日、西川右近三十六才により制作されたことが明らかになりました。更に「真修院日長」という人は当山過去帳により「真修院殿孝縁妙榮日長」大姉、天和二年戊（一六八二）十一月七日逝去と思われます。「教授院日壽」は過去帳に依れば享保七年寅（一七二二）八月二十五日遷化の聖人であらうと思えます。

更に像底に由緒文を証明するものでしょうか、日蓮花押による墨書がありました。「日蓮」とは当山過去帳に依れば、小西楳林正法寺第二十一世文能示性院日蓮聖人

だと思えます。依って宗祖日蓮大聖人尊像として再開眼し仏殿多宝塔内一塔両尊の御前に奉安いたしました。

お顔は墨色ですが、お若い頃を模したものが端麗な若々しいお顔であります。お身体の袈裟、法衣はさすが松平薩摩守家（島津家）が施主となったものだけあって金箔の立派なものであります。

← 仏殿の多宝塔内一塔両尊像



そうしますと当山に門祖日向聖人の尊像が無くなってしまいう事になります。ところが不思議な事に、日向聖人の尊像とされていた座像を修理に出す前に一つの

ご木像が当山にお帰りになりました。平成二十年夏の頃、当山檀家「鈴木弥三郎商店」の鈴木義雄氏より信行寺の寺族佐々木きみさんを介して、長らく鈴木家の親族・鶴岡家にお配りしていた日蓮大聖人座像を返還したいとの申し出がありました。ご尊像と鶴岡家の縁由は大正六年十月一日の大暴風雨によって倒壊した山門の修理を当山総代であった鈴木家の先々代鈴木弥作氏（妙譽院鈴音日弥居士・昭和二十九年十月一日逝去・世壽八十七歳）が姉「くに」女の方である東京市京橋区新湊町の大工棟梁徳岡竹次郎氏を紹介し、山門の修復が整理を請け負わせ、その時のお札として、山門に安置してあったご尊像を第七十七世久遠院日蓮聖人が下賜されたものだそうであります。

このご尊像は、この度お帰りになった日蓮大聖人の尊像よりももっと痛みが激しく、先に補修を依頼しておりました。その過程で内剣面に寛永の文字が墨書され胎内蔵品より、門祖日向聖人として、当山中興と称せられる第二十三世玄性院日蓮聖人によって開眼され、

（次項へ）

行事記録

唯幸日榮（不明）によって彩色が施され、第二十五世圓成院日般聖人によって天和三年（一六八二）癸亥年六月十九日裏書がされていることが判明しました。

また補修は終わっていませんが、今年の九月三日のご命日には当山にお戻りになる事と思います。門祖日向聖人第七百遠忌を平成二十五年に迎えるに当たり、日向聖人が御自ら現れにられたとの思いを深くし、一日も早くお目に掛かりたいと待ち望む次第であります。

御会式

（平成二十二年十一月十三日）
天候にも恵まれ、午後四時半頃に万燈行列は茂原小学校を出発しました。それから三十分後の五時より大堂にて持田貫首様を御導師に御会式法要が厳修されました。今年には雅楽奏者兼式衆が世代交代により一新されましたが、龍笛、箏、鳳笙、全てが一体となった雅やかな演奏が堂内に響き渡りました。お自覚儀が始まり、堂内の明かりが次々に消えた後、御宝前

（当山の筆頭総代安藤盛勇様と實相寺の総代渡辺久造様によって献灯が奉納されました。



↑左が安藤総代様、右が渡辺総代様
お二人による献灯奉納の様子。

法要終了後、同時に万燈行列が総門に到着し、子供万燈と合流しました。萬原寺・東光院・信行寺・妙源寺・實相寺・妙弘寺・法蓮寺中延結社・立正佼成会の前番に大堂正面前にて万燈が奉納され、万燈講の代表として当山次席総代寺田憲司様による報告文の後、修法師会によって大衆修法が行われました。



新年祝待会（一月一日）

平成二十三年の新年を祝し、年末十一時二十分より突き始めた除夜の鐘が打ち鳴らされる中、正十二時より新年祝待会法要が厳肅に奉行されました。持田貫首様御導師のもと山内僧侶総出仕により、檀信徒総代並びに、世話人、常在講、柔和有志が参列し、法華経要品が中拍子で誦誦され、一時間の法要が行われました。



↑新年を迎える前の除夜の鐘の後、鐘を突こうと多くの人が参拝しました。

当山の繁栄と日向聖人七百遠忌記念事業として日蓮大聖人大銅像の建立無事内成が祈願され、檀信徒の身体健全と家内安全が祈念されました。その後、貫首様が総代と共に雄経殿、仏殿、お内仏にご法味を言上しました。午前一時半から当山の書院にておせち料理で祝宴が催され、午前二時半過ぎにお開きになりました。

年頭会（一月十日）

晴天に恵まれた一月十日、当山恒例行事「年頭会」が行なわれました。持田貫首様を大導師に、当山参与人の東光院御山主豊田貫修僧正、長妙寺御山主川崎亮一僧正を副導師に招聘し厳肅に奉行されました。最初に禪宗宗良様により献茶、大導師による献供の儀が行われ、萬原寺和讃会により和讃奉唱、続いて増田総務により御年頭会の縁起が奉読されました。式中貫首様の鳴弦の儀が行われ、さらに縁起のなかにある「実長公は大聖人のために伶人に高砂十二段の雅楽を奏でしめれば、大聖人の弟子の中の若法師ら延年の舞踏を舞ってこれに応えた」とある故事に則り、松本勇子師匠門下の松本博子様と長谷川さやか様により「七尾またら」の舞が奉納され、華やかさを添えられました。法要には縁故寺院や近隣寺院を招待し、本久寺、長徳寺、正業寺、實相寺、東光院、妙源寺、妙楽寺、圓頓寺、萬福寺の二任職や、総代、役員も参列し、檀信徒や信行会を含め百十余名が参加されました。

（次項へ）

法要終了後、大聖人が波木井実長卿の館に赴かれた故事にのっとり曳馬式が行われ、大堂前庭にかしずいた栗鹿毛の馬にニンジンを与えて愛でました。その後仏殿に移り新年の祝賀会が盛大に行われ、蒲田・清波会の鳴り物と踊りの演舞の内に、一回和やかな一時をすごし散会しました。

①お福講会の舞臺納 ②能分豆まきの様子



節分会 (二月三日)

毎年賑々しく開催されている節分会は好天に恵まれ温かな二月三日、午後三時より法要が行われました。今年には年男四十六名、福娘十二名計五十八名の参加者が福祿倍増、年中無難の祈禱を受け祝酒を盃しました。福茶は杉本住則様、福豆は土原善弥様が献上しました。誓詞言上は今年で年男を四十年勤続された香藤安正様です。

その後、午後四時に大堂正面に設けられた特設舞台から「福は内」の威勢の良いかけ声と共に福豆やお菓子や景品番号を記したボールが待ち受けている五百人以上の大勢の人々に撒かれました。年男には田中茂原市長、横堀・鶴岡両県議会議員、鈴木市会議員、本田茂原警察署長等の方々が参加され、当山総代の安藤盛男商工会議所前会頭や寺田憲司茂原観光協会会長、館田泰夫様、大谷覚子様、松本哲也様も真首様と共に福豆を撒かれました。その後、仏殿で祝宴が行われました。

奉

納

大堂の須弥壇の宮殿裏の

白壁を金箔の壁に荘厳

大堂の正面、須弥壇には宮殿があり、日蓮大聖人のご尊像が奉安されております。このご尊像は天和二年(一六八二)十月十日、当山第二十三世玄性院日俊上人の世代の作であります。宮殿は天和三年に納められたと記されております。宮殿裏は白壁でありましたのを、この度、本久寺住職持田貴信

上人が第七十八世中興嘗壽院雲山日我聖人第七十五回忌報恩謝徳のために金箔の壁とされることを志し、平成二十二年の末に完成し奉納されました。



1 金箔が塗られた大堂の須弥壇の宮殿裏

仏殿導師用

鑿子(打ち鳴らし) 新調

世話人の堀口雅史・芳子夫妻が尊姓姪み女(浄観院妙保日蓮伊女)の一周年忌に当たり、尊考保昌氏(浄照院法旨日保信士)と借妹喜代子女(浄智院妙喜日清信女)の法号を追贈し、ご供養として仏殿の導師登高座に置く鑿子を寄附され、平成二十三年二月二十六日の法要の折りに奉納されました。

行事案内

●三月二十一日(日)午前十時

春季彼岸法要

法要終了後 開基堂大祭

●四月一日(金) 午前十一時

華経房大祭

●四月三日(日) 午前十一時

花祭り法要・稚児行列

午後一時 花祭りコンサート

●五月七日(土) 午前十一時

お題目初唱大会

●六月一日(水) 午後六時

夏季宗祖御更衣式

●七月二十一日(木) 午前九時

ホウロク灸